

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5 年計画の 2 年度目)

1. 研究課題

(和文) 漢簡語彙辞典の出版

(英文) Publication of the dictionary on Han Wooden slips

2. 研究代表者

(氏名) 富谷 至

3. 研究期間

平成 22 年 4 月 から 平成 27 年 3 月 まで

4. 研究目的 (400字程度)

本研究班の目的、および達成すべき成果は、『漢簡語彙辞典』を編纂し、出版することである。出版社(岩波書店)はすでに決定しており、2013年度内に出すことになっている。

辞書の内容は、居延漢簡、敦煌漢簡の語彙を網羅し、意味、文献史料の用例、簡牘資料の用例をあげる。簡牘、とくに居延漢簡、敦煌漢簡の研究において、第一線で活躍する研究者が集まり、人文研の伝統的な会読の方法をもってすすめた成果として、この漢簡辞典は、斯界に計り知れない貢献をすること間違いない。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

一年を通じて毎週研究班をおこない、収録語彙は約5500項目に達した。また研究班開催日の午後12時45分から2時まで、班員の有志からなるワーキンググループで項目の整理、追加などをすすめた

6. 研究成果の概要 (400字程度)

『漢簡語彙辞典』と『漢簡語彙考証』二冊を研究成果として出版する。

7. 共同研究会に関連した公表実績 (出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など)

出版が第一の目的であるため、それにむけて全力を傾ける。したがって、シンポジウムはしない。

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区分	所属機関数	参加人数	延べ人数
学内	2	2	86
国立大学			
公立大学			
私立大学	7	7	301
大学共同利用機関法人			
民間・独立行政法人等			
外国の研究機関	3	3	129
(うち大学院生)	()	()	()
計	12	12	516

※当該年度の共同利用・共同研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

(例)

- ・1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた(参加した場合) : 参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

論文数	10
上記のうち国際学術誌に掲載された論文数	3

※研究者がファーストオーサーであること。学内の紀要等に発表されたものを除く

なお、高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された論文がある場合、その雑誌、掲載論文、そのうち主な論文の詳細等

掲載雑誌名等	論文名	発表者氏名